

## 1 概要

国際金融において最も重要な変数のひとつは為替レートです。本講義では、為替レートとは何かといった問いからはじめ、(1)為替レートはなぜ動くのか、(2)経済にどのような影響を及ぼすのか、(3)どのような為替レート制度が効果的なのか、といった疑問に対して、経済学的な視点からの解説を行います。これによって、国際金融現象を考察するときの枠組を習得できるでしょう。加えて、**経済学的な考え方**を習得してもらうことも目標とします。したがって、講義では分析方法の説明についても十分な時間を割きます。

講義の後半では、国際経済と国際政治との相互作用に注目した**政治経済学的な視点**を導入し、通常の経済分析では扱わない、為替レート政策をめぐる国内・国際政治についても議論します。

## 2 前提知識

経済学および数学の知識については、特に前提しません。経済学の考え方については、随時説明します。また、数学については極力用いないようにしますが、簡単な数式操作やグラフの意味・読み方については登場する度に詳しく説明します。

## 3 講義のウェブページ

私のウェブサイトに「講義メモ」をアップしていく予定です(不定期)。また、受講者からの質問等に基づいて、追加の情報もアップしていきます。中間・期末試験の情報等も掲載しますので、時々見るようにしてください。

<http://www1.meijigakuin.ac.jp/~iwamura/>

\*yahoo で私の名前で検索していただくと、2番目に出てきます。1番目は前任校でのウェブサイトですので、間違えないでください。

## 4 教科書・参考書

教科書

[P. クルグマン, M. オブスフェルド, 石井・竹中・松井・浦田・千田訳, 『国際経済 理論と政策 II 国際マクロ経済学』, 新世社 \(1996年\).](#)

原著第3版の訳です。すでに原著は改定第8版が出ていることを考えると、正直古さは否めません。一刻も早く最新版の訳を出して欲しいものです。

## 参考書

- [1] [P. クルーグマン, M. オブスフェルド, 吉田和男監訳, 『クルーグマン国際経済学』, エコノミスト社, 2003年.](#)

こちらは同じ本の、別の訳者による翻訳です。原著第5版の翻訳ですので、それほど古さは感じません。本当はこちらをテキストに指定したかったのですが、貿易部分（原著前半）と国際金融部分（原著後半）を分冊にしていなかったため、学部学生のテキストとしてはたいへん高価になっており、断念しました。

- [2] [P. Krugman & M. Obstfeld, \*International Economics: Theory and Policy\*, the 8th edition, Addison Wesley.](#) (原著)

原著はほぼ2年に1回のペースで改定されていますから、やはり原著にあたるのが一番でしょう。大学院進学を考えている方は、原著を読むことをお勧めします。英語自体はシンプルでわかりやすいです。

- [3] [岩田規久男, 『国際金融入門 新版』 \(岩波新書 1196\), 岩波書店 \(2009年\).](#)

新書ですから、経済学自体の初心者にもわかるよう丁寧に（「やさしく」ではない）書かれています。初版は私が岩田先生の授業を受けていた頃に出版されましたが、今年7月に改定新版が出ました。当然、昨秋以降の国際金融危機についても触れられています。制度・理論・歴史のどれも十分な解説が成されていて、新書としては贅沢な内容です。購入をお勧めします。同じ著者の『金融入門 新版』（岩波新書 635）を併せて読むと、理解が深まります。

- [4] [高木信二, 『入門 国際金融』 \(第3版\), 東洋経済新報社 \(2006年\).](#)

- [5] [藤原秀夫, 小川英治, 地主敏樹, 『国際金融』 \(有斐閣アルマシリーズ\), 有斐閣 \(2001年\).](#)

[4][5]は、あくまでミクロ・マクロ経済学（と数学）をある程度勉強した人向けの本ですので初学者の自習にはむいていないでしょう。本講義と並行して読むとよいと思います。同じ内容であっても、著者によって説明の仕方に個性があります。教科書や私の説明がしっくり来ない場合は、これらの参考書の同じ箇所を読んでみるという手もあります。

- [6] [飯田敬輔, 『国際政治経済』, 東京大学出版会 \(2007年\).](#)

本講義では、為替レート政策の政治的側面についても扱います。国際金融の政治経済学的側面を扱った学部レベルのテキストとして参考になるでしょう。

- [7] [飯田泰之, 『経済学的思考の技術』, ダイヤモンド社 \(2003年\).](#)

経済学そのものの考え方について、一般読者向けに書かれた本です。

## 5 成績評価について

- 中間試験と期末試験の点数を基礎として評価を決めます。
- 出席はいっさい考慮しません（したがって出席はとりません）。内容を理解しているか否かが全てです。
- いかなる理由にせよ，中間試験を受験しなかった場合は，中間試験の得点が 0 点になります。むろん，その場合でも期末試験を受ける資格は残り，期末試験の点数次第では単位取得の可能性もあるでしょう。
- 試験は，「前日に丸暗記して試験でいっき書き出す」式の問題がひとつもありません。あくまで理屈を理解していなければ答案を書けないでしょう。

## 6 質問等

初歩的なものから大歓迎です。

オフィスアワー：火曜 3 限 13:25 – 14:55 @研究室（8 号館 4 階 8413）

E メール：[iwamura@k.meijigakuin.ac.jp](mailto:iwamura@k.meijigakuin.ac.jp)